

| 学部等 | 学科等 | ①大学・大学院の設置理念 | | ②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） | |
|--------------------------------|---------|-----------------------------|---|------------------------|---|
| | | ①学科・専攻の設置理念 | | ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻） | |
| ③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと） | | | | | |
| | | ①大学の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」 | <p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクールの認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p> | ②教員養成に対する理念・構想 | <p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、“桃李”が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がられており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念、環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的探究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人の期待に応えて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p> |
| 文学部 | 英語英米文学科 | ①設置理念「②教員養成に対する理念・構想」 | <p>成蹊大学文学部は、文化現象の総合的理解とその継承を基本理念とし、この目標にもとづき、日本および諸外国の過去から現在に至る社会・文化の多様な様相を多角的な視点や方法によって分析・研究するとともに、ますます多様化し複雑化しつつある社会・文化の諸状況の中にあっても自己の主体性を失わず、「時代と社会の変化に柔軟に対応できる自立的な人間」を育成することに努めることを理念とする。この理念の実現のために、少人数教育を基本とする教養教育および専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力および多面的な分析能力の伸長を図ること、並びに言葉を通して形づくられた人間、歴史および社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することが学部の教育研究上の目的である。これら学部の理念・教育研究上の目的に即し、英語英米文学科としての具体的な教育研究上の目的（人材養成像）を次のように定める。</p> <p>(1) 英語を学ぶことにより、言語そのものに対する意識を育み、英語圏文学・文化を学ぶことを通して文化が言葉によって成り立つことを認識させた上で、自国の文化および異文化を相対化して読み解く力を育てる。</p> <p>(2) 外国語としての英語の運用力を強化するとともに、英語圏の文化および歴史について幅広い理解を持ち、自らの文化的背景に立脚した価値観に立って判断し行動する真の国際感覚を備えた人材および日本の英語教育に貢献する人材を養成する。</p> <p>これらの教育研究上の目的、人材養成像等をもとに、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（文学）の学位を授与とするディプロマ・ポリシー【略】を定めている。</p> | ②教員養成に対する理念・構想 | <p>英語英米文学科では、英語を学ぶことにより、異文化間コミュニケーションの基礎となる英語能力を身につけ、英語圏の文学作品を通じて文化や歴史背景を幅広く理解した上で、自らの文化的背景に立脚した価値観に立って判断し行動する真の国際感覚を兼ね備えた人材の育成を目的としている。その教育課程を活かし、英語圏の文学・文化、英語学、英語教育の分野の専門性を持ち、批判的・論理的思考力、課題研究・問題解決力、コミュニケーションの能力、プレゼンテーション能力など多角的な分析能力を身につけた教員を養成することを目標としている。</p> |
| | | ③認定を受けようとする課程 | <p>● 中学校一種免許状（英語）</p> <p>英語英米文学科では、英語を学ぶことにより言語そのものに対する意識を育み、英語圏文学・文化を学ぶことを通して文化が言葉によって成り立つことを認識させ、自国の文化および異文化を相対化して読み解く力を育てることを教育目標に掲げている。また第二言語としての英語の運用能力を強化するとともに、英語圏の文化と歴史について幅広い理解をもち、自らの文化的背景に立脚した価値観に立って判断し行動する真の国際感覚を備えた人材、および日本の英語教育に貢献する人材の育成に力を入れている。</p> <p>上述の学科の理念および教育目標から、以下のような方針で教職課程を編成している。</p> <p>(1) 英語という言語の歴史的成り立ちから現代の世界的規模で英語を用いる国や地域の拡大にいたるまで、英語に関わる学問・研究的現状を幅広く学習する。英語の言語としての構造を学び、グローバル化に対応したコミュニケーション能力を修得し実践することができる教員を養成する。</p> <p>(2) 英語を使って読む・聞く・話す・書くという高度なスキルを修得することにより、高い英語運用能力をもつ教員を養成する。</p> <p>(3) 外国語である英語を効率的に学習するための英語教育の理論と実践を修得することにより、高度な英語教授法を身につけた教員を養成する。</p> <p>以上を総合的に学ぶことから、英語英米文学科で教職を履修する学生は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につけた教員を養成することができる。</p> <p>● 高等学校一種免許状（英語）</p> <p>英語英米文学科では、英語を学ぶことにより言語そのものに対する意識を育み、英語圏文学・文化を学ぶことを通して文化が言葉によって成り立つことを認識させ、自国の文化および異文化を相対化して読み解く力を育てることを教育目標に掲げている。また第二言語としての英語の運用能力を強化するとともに、英語圏の文化と歴史について幅広い理解をもち、自らの文化的背景に立脚した価値観に立って判断し行動する真の国際感覚を備えた人材、および日本の英語教育に貢献する人材の育成に力を入れている。</p> <p>上述の学科の理念および教育目標から、以下のような方針で教職課程を編成している。</p> <p>(1) 英語という言語の歴史的成り立ちから現代の世界的規模で英語を用いる国や地域の拡大にいたるまで、英語に関わる学問・研究的現状を幅広く学習する。英語の言語としての構造、イギリス、アメリカ、その他の英語圏の文学・文化・歴史を学び、広く言語と文化の関わりを大きな視野で思考することができる教員を養成する。</p> <p>(2) 英語を使って読む・聞く・話す・書くという高度なスキルを修得することにより、高い英語運用能力をもつ教員を養成する。</p> <p>(3) 外国語である英語を効率的に学習するための英語教育の理論と実践を修得することにより、高度な英語教授法を身につけた教員を養成する。</p> <p>以上を総合的に学ぶことから、英語英米文学科で教職を履修する学生は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につけた教員を養成することができる。</p> | | |

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<文学部英語英米文学科> (認定課程: 中一種免(英語)、高一種免(英語))

(1) 各段階における到達目標

| 履修年次 | | 到達目標 |
|------|----|---|
| 年次 | 時期 | |
| 1年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、英語必修科目に規定する「Integrated English 141」「Summer Intensive 140」や「Grammar Basics」といった科目で、大学における英語学修における基礎的素養を徹底的にブラッシュアップすることを目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修にあつては、前期の「Integrated English 141」に続く「同241」で英語の基礎的素養のブラッシュアップを続けるとともに、英語英米文学科で重視する3つのフォーカス(言語と社会、文化とコンテキスト、芸術と思想)の基礎となる入門科目を履修し、2年次以降の専門学修の基礎的知識を習得することを到達目標とする。</p> |
| 2年次 | 前期 | <p>前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などにの知識と基礎的技能を習得していることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、1年次での英語の基礎的素養の形成、専門基礎の知識を前提として、3つのフォーカス(言語と社会、文化とコンテキスト、芸術と思想)の学修を進め、教科に関する専門的事項を履修することで、徐々に英語の教科に関する専門知識を得ることを到達目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。また教科の指導法の履修が始まり、「英語科教育法Ⅰ」では、教科指導の基本的知識の習得を目標とするとともに、授業案の作成の手順を習得した上で模擬授業の準備を行っていくことがねらいとなる。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、前期に引き続き3つのフォーカス(言語と社会、文化とコンテキスト、芸術と思想)の学修を進め、教科に関する専門的事項を履修することで、徐々に英語の教科に関する専門知識を得ることを到達目標とする。</p> |
| | 前期 | <p>前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また教科の指導法として「英語科教育法Ⅱ」を履修し、2年次後期で習得した教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて模擬授業を行い、教育実習での教科指導の準備を行うことを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、学科専門科目の履修に加え、学生個々の関心に応じて卒業論文執筆までの専門知識を深化させることを目指す「セミナー」の履修が始まる。この「セミナー」では各自が自主的に専門分野において研究テーマを設定し、リサーチ、発表などを行うことにより、英語教員に必要なリサーチ能力を図るとともにコミュニケーション能力を養うことを目標とする。</p> |

| | | |
|-----|----|---|
| 3年次 | 後期 | <p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>教科の指導法として履修する、「英語科教育法Ⅲ」では、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業を中心とした指導を行い、教科指導の準備をより確実なものとすることを目標とする。また中学校教員免許状取得の際の必修科目である「英語科教育法Ⅳ」では、英語科教育の担うべき役割や教科内容、教材研究や授業づくりの方法などの講義・演習を通して、特に中学校における英語科教育の在り方を学ぶ。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、前期に引き続き、学科の専門科目の履修に加え、「セミナー600」を履修することで、英語教員として必要なスキルの向上、英語教授法、英語圏文化に関する専門知識の修養を深める。</p> |
| 4年次 | 前期 | <p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、これまで履修できなかった科目を履修することにより教員としての知識を補うとともに、学部教育の集大成として、全員が「卒業論文」執筆に向けて自らの研究に取り組み、教員としても不可欠な英文の文章作成能力を涵養することを目標とする。</p> |
| | 後期 | <p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、前期に引き続き「卒業論文」を完成させるとともに、学部卒業および教員として必要な能力の完成が最大目標である。</p> |

様式第7号ウ（教諭）

<文学部英語英米文学科>（認定課程：中一種免（英語）、高一種免（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | | | | |
|------|----|--------------------------------|------|---------------|------------------------------|----------------|---|--|-------------------|
| | | 各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等 | | | 教科に関する専門的事項に関する科目 | 大学が独自に設定する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | その他教職課程に関連のある科目 | |
| 年次 | 時期 | 科目区分 | 必要事項 | 科目名称 | | | | | |
| 1年次 | 前期 | 2 | C | 教職論 | Integrated English 141 | | College English (Listening & Speaking) I | College English (Reading & Writing) I | |
| | | 2 | B | 教育原理 | | | 情報基礎 | Summer Intensive | |
| | | 2 | E | 教育心理学 | | | | | セミナー100 |
| | | | | | | | | | Grammar Basics142 |
| | 後期 | 2 | D | 学校と社会 | Integrated English 241 | | College English (Listening & Speaking) II | College English (Reading & Writing) II | |
| | | 3 | L | 生徒指導論 | 英語学入門210 | | 健康・スポーツ演習B | セミナー200 | |
| | | 3 | N | 進路指導論 | 英語圏文化入門220 | | 日本国憲法 | | |
| | | | | | 英語圏芸術・文学入門230 | | | | |
| 2年次 | 前期 | 2 | F | 特別支援教育概論 | 英語史A312 | | | College English (Integrated Skills) I | |
| | | 3 | K | 教育の方法と技術 | 英語圏文化322(コミュニケーション) | | | 英語圏芸術と文学研究基礎337 | |
| | | | | | 英語圏文化323(ジェンダー) | | | Integrated English 341 | |
| | | | | | 英語圏文化324(人種) | | | セミナー300 | |
| | | | | | アメリカ文学史331 | | | | |
| | | | | | イギリス文学史332 | | | | |
| | 後期 | 2 | G | 教育課程論 | 英語史B 412 | 学習指導と学校図書館 | | College English (Integrated Skills) II | |
| | | 3 | R | ICT活用の理論と方法 | 英語圏文化421(戦争) | 英語圏文化426(英語教育) | | Integrated English 441 | |
| | | 3 | M | 教育相談 | 英語圏文化422(複言語・複文化主義) | | | セミナー400 | |
| | | | | 英語科教育法 I | | | | 英語圏思想A 433(近代以前) | |
| 3年次 | 前期 | 3 | I | 総合的な学習の時間の指導法 | 英語音声学311 | 学校経営と学校図書館 | | Integrated English 541 | |
| | | 3 | H | 道徳教育の指導法 | English Around the World 314 | | | セミナー500 | |
| | | 3 | J | 特別活動の指導法 | | | | 英語圏文化研究基礎A 325 | |
| | | | | 英語科教育法 II | | | | ヨーロッパの歴史と文化A | |
| | 後期 | 4 | | 教育実習論 | 英文法414 | 教職特論演習 I | | Integrated English 641 | |
| | | | | 英語科教育法 III | 英語圏芸術・文学 B434(インターテクスチャリ) | 学校図書館メディアの構成 | | セミナー600 | |
| | | | | 英語科教育法 IV | | | | 英語圏文化425(児童文学) | |
| | | | | | | | | 英語圏思想B 431(現代) | |
| 4年次 | 前期 | 4 | | 教育実習(中・高) | | 教職特論演習 II | | セミナー700 | |
| | | | | | | 読書と豊かな人間性 | | 卒業論文 | |
| | | | | | | | | | |
| | 後期 | 4 | | 教職実践演習(中・高) | | 情報メディアの活用 | | セミナー800 | |
| | | 4 | | | | | | 卒業論文 | |
| | | | | | | | | 批評理論436 | |